

『INCHの楽しい仲間たち』 vol.14 その1

夏のボーナスの終わりに、九州で温泉旅行をしようの会

鈴木風馬（自然文化誌研究会運営委員）

1.はじめに

これまで、国内各地を旅してきたが、初めてレポートのようなものを書いてみたので、ナマステに初寄稿してみる。

今回の旅は、INCHスタッフの大窪（青樹）氏と共に、敬老の日の連休を使って九州へ出かけた件である。旅をしながら文章を書いているので、つながりが悪かったり、読みにくい箇所も多いと思うが、旅の雰囲気伝わればと思って書く。

行程

1日目 2023.9.16

岩槻→大宮→新橋→浜松町→羽田空港→福岡空港→博多→熊本→阿蘇→鍋ヶ滝→阿蘇内牧温泉

2日目 2023.9.17

内牧温泉→阿蘇山草千里→阿蘇→宮地→豊後竹田→大分→別府

3日目 2023.9.18

別府→鉄輪温泉→地獄めぐり→別府→博多→福岡空港→羽田空港→品川→大宮→岩槻

1日目 2023.9.16 さいたま 晴れ

岩槻 5:17→(東武野田線普通船橋行き)→5:26 春日部 5:35→(東武伊勢崎線特急スカイツリーライナー2号浅草行き)→6:03 曳舟 6:11→(東武伊勢崎線準急中央林間行き)→6:13 押上 6:25→(都営浅草線エアポート快特羽田空港行き)→7:20 羽田空港第1・第2ターミナル→羽田空港 8:30→(ANA243 便福岡行き)→10:20 福岡空港→福岡空港駅 10:45→(福岡市地下鉄空港線筑前前原行き)→10:50 博多 10:58→(九州新幹線さくら575号鹿児島中央行き)→11:35 熊本 11:51→(豊肥本線特急あそ1号宮地行き)→13:02 阿蘇→(レンタカー)→鍋ヶ滝→阿蘇内牧温泉 旅の宿 阿蘇乃湯

前夜仕事を終えてから新潟から埼玉へ移動し、実家に泊まった。

4:30、起床する。かなり眠いが、今日は羽田 8:30 の飛行機に乗るので頑張って空港へ向かう。5:00、大窪氏との合流のため、岩槻駅へ送ってもらう。乗るのは 5:17 発岩槻始発船橋行きである。5:26、春日部着。5:35 発特急スカイツリーライナーに乗り、6:03 着の曳舟で下車する。土曜日ということもあってかかなりガラガラで1両に数人しか乗っていない。

おそらく北春日部の車庫から浅草へ送り込む列車を客扱いしているだけなのだろう。平日はもう少し混むのかもしれない。複々線を快走しあつという間に北千住を過ぎると、もう曳舟である。次に乗るのは 6:11 発の準急中央林間行きで、押上まで一駅である。

ここで大窪氏が到着し、ホームで合流した。押上で都営浅草線の 6:25 発エアポート快特羽田空港行きに乗り継ぐ。空港まであと 1 時間ほどである。座席は塞がっていて、大荷物の人も数名見受けられた。品川からはエアポート急行に変わり、蒲田で特急の待ち合わせをして、7:20 に羽田空港に着いた。まずはチェックインし、搭乗券を出力し、手荷物は持ち込むことにして、保安検査場を通過する。3 連休の朝イチなので凄まじい混雑であった。乗るのは 8:30 発の福岡行きであるが、買い物をしたり食事をとったりする余裕はなく、流れるように搭乗口へ向かった。機材は B787 で、かなり新しめの機材であった。機内アナウンスによると満席らしい。やはり空港は余裕が必要だなと思った。この先福岡ではタイトなスケジュールなので、ちょっと心配だ。

離陸前のアナウンスでは、福岡着は 10:25~10:30 とのこと。10:45 の地下鉄には乗りたいが、乗れなければ新幹線はキャンセルし、後続の自由席に乗ることにする。長い長い連絡路を走り、8:50 頃に C 滑走路より離陸。後ろの方の席だが、ほとんど揺れず素晴らしい離陸であった。あつという間に雲を突き抜け、晴れの下へ出る。座席の背面に画面がついており、映画やテレビ番組が見られるようだ。高度、気温、緯度経度、速度、残りの距離などフライトの情報も出てくる。隣席の大窪氏は前日の残業の疲れか睡眠モードである。ぐんぐん高度を上げ、機長アナウンスでは高度 40000ft(約 12000m)とのこと。良好なコンディションでフライトできるらしい。私は宮脇俊三著「インド鉄道紀行」を読みつつ過ごす。今回は進行右側の席で、富士

山は見えなかったがハケ岳が見えた。琵琶湖上空あたりで飲み物が配られた。お茶、コーヒー、ジュースがあり、リンゴジュースにした。よく冷えていて、うまい。地形の特徴から敦賀市が見え、ほとんど揺れることなく飛行機は快調なフライトで進む。大窪氏は機内サービスの映画を見ていた。今はマリオの映画のようだ。眠気は少し感じるが、本を読み進める。9:40頃、岡山付近の上空を飛行中で、高度は12192m、気温-55℃、対気流速は839kmph(約523km/h)、対地速度は841km/hで、残りの飛行距離は277km、あと35分ほどで着くようだ。到着予定も定刻より1分早い10:19とのこと。このまま縮めてくれれば余裕ができるので、頑張っで欲しい。広島上空を通過したあたりで、高度を下げ始めた。少し揺れるが、まだまだ余裕である。下関を過ぎて一気に高度を下げ、かなりの揺れを感じつつ10:12、福岡空港に着陸した。5分ほど早く扉が開きそうだ。定刻10:20頃から降機開始となり、10:30には到着ロビーに抜け、10:35頃には地下鉄のホームに行くことができた。預けなかった判断は正しかった。10:38 発の姪浜行きに乗り、10:43 博多駅で下車。すぐにきっぷ売り場に行き、ネット予約の受け取りをする。こちらも凄まじい混雑で、少し手間取り、10分ほどかかってしまった。ダッシュで新幹線の改札へ向かい、14番線の10:58 発さくら575号に飛び乗る。かなりギリギリであったがなんとか乗ることができた。新大阪からの直通なので、N700系で指定席にしたので2+2列の広い席であった。ほぼ満席のようで、スーツケースがたくさん網棚に乗せられていた。福岡へ降りてから天気は良く、熊本も阿蘇も雨は降っていないようなので、いい天気で旅ができそうだ。11:35、熊本駅に到着。駅前に出てみる。何度見てもこの黒い駅舎の熊本駅は見慣れない。



写真1 熊本駅にて くまモンと大窪氏

在来線ホームへ移動し、11:51 発特急あそ1号宮地行きに乗り込む。怒った熊のような赤色の気動車2両編成で、自由席はまばらな乗車率であった。熊本市街地にもこまめに停まりつつ、大津からは急坂を駆け上がり、阿蘇の外輪山へ取り付く。立野駅では豊肥本線のハイライトであるスイッチバックを通り、さらに阿蘇カルデラへ向けて坂を登る。天気は良く、美しい阿蘇山と共に熊本地震で崩落した阿蘇大橋の遺構なども車窓に見えた。赤水から先は、カルデラの中の高原を快走し、右手に阿蘇山を望みつつ13:02、阿蘇駅に着いた。



写真2 特急あそ1号(キハ185系気動車)と外輪山へ挑む車窓

写真3 阿蘇駅の食堂の高菜飯

駅舎の食堂で高菜飯をいただく。阿蘇は高菜がうまいらしい、実際美味しい。

駅前のレンタカー屋でレンタカーを借り、カルデラを北へ走って小国町の鍋ヶ滝へ向かう。これは大窪氏リクエストのスポットで、滝壺の裏が侵食されていて人が入れるくらいの洞窟になっている滝である。流れ落ちる水は少なかったが、神秘的なスポットであった。



写真4 鍋ヶ滝 滝の裏に入ることができる

15:30 頃に出発し、カルデラの展望台、大観峰へ行った。夕方に差し掛かる美しい景色と共に、阿蘇カルデラが一望できて美しかったが、残念ながら阿蘇山本体は霞に隠れて見えなかった。



写真5 大観峰（外輪山北側の展望地）にて

16:30 に大観峰を出発して、16:50 頃に今夜の宿「旅の宿 阿蘇乃湯」さんへチェックイン。まずは荷物を置き、風呂に入った。部屋は 6 畳間だが、2 人なのでちょうどいい。館内の雰囲気もよく、温かみのある内装であった。風呂は日帰り入浴施設と共用で、内湯が 1 つ、サウナはないが水風呂が一つ、露天が一つで、熱めの湯であった。18 時から夕食、あか牛の溶岩焼きをメインのお膳で、だご汁などの郷土料理も出されて満足。もう一度風呂に入り、今朝早朝から動いた疲れもあって 22 時頃には就寝。



写真6 宿外観と夕食（あか牛の溶岩焼き）

写真7 夕食のご飯は高菜飯、汁物はだご汁 写真8 お部屋で宴会

2日目 2023.9.17 阿蘇 晴れ

旅の宿 阿蘇乃湯→草千里→阿蘇火山博物館→中岳火口→阿蘇駅 12:35→(豊肥本線普通宮地行き)→12:41 宮地駅 13:08→(豊肥本線普通豊後竹田行き)→13:52 豊後竹田駅 13:55→15:08 大分駅→アミュプラザ大分→大分駅 15:51→(日豊本線普通柳ヶ浦行き)→16:02 別府→ホテルシーウェーブ別府

4:00 大窪氏のアラームで目覚めるも二度寝する。以後断続的にアラームが鳴るも、7:40 まで起きず。8:00 から朝食、オーソドックスな和食膳であった。



写真9 宿の朝食

飯の後に朝風呂を浴びて、9 時過ぎにチェックアウトし、阿蘇山を登って草千里へ向かう。パノラマラインの道沿いには牧草地が広がり、美しい景色の中で牛が草を食べていた。草千里の駐車場待ちもなく、すんなりと入れたが中は混んでいた。阿蘇火山博物館で、火口まで行けるとい話を聞いたので、火山博物館を見学してから火口へ向かう。日本一のカルデラはスケールが大きく、見どころ満載で、噴火の歴史も長いことが分かりよかった。



写真10 阿蘇パノラマラインの景色と米塚、草千里ヶ浜

火口までは車で15分ほどで到着。途中から有料道路になり、往復で800円かかる。火口も混んでいたが、中岳第一火口の底には硫黄の結晶らしき黄色い岩が見え、水が溜まっているのかわからないが噴煙を上げていた。



写真11 中岳第一火口と大窪氏

写真12 馬力丼といい駅舎の宮地駅

11:40頃に火口を出発し、阿蘇駅へ戻った。帰りのパノラマラインは草千里の駐車場待ち渋滞を横目に下った。大窪氏もテンションが上がってきたようで、ノリノリであった。給油して12:15頃にレンタカーを返却して、道の駅で弁当を買った。馬肉が有名な熊本なのと、阿蘇あか牛は昨日宿の夕食でいただいたので、「馬力丼」にした。12:35発の宮地行き普通列車で12:41宮地着。隣のホームには臨時特急の「かわせみ やませみ」が停車していた。30分弱時間があるので馬力丼をいただく。馬肉の醤油煮がたくさん乗っていて、淡白な肉ながら非常に美味しい。



写真13 やませみ かわせみ号と山越えの普通列車

ベロリと平らげて、再び改札に入り13:08発豊後竹田行き普通列車に乗り込む。真っ黄色の気動車1両で、ボックスシートに着席。側面には「Y-DC125」「YELLOW ONE MAN DIESEL CAR」などと書いてあるデザインであった。九州の車両は、工業デザイナーの水戸岡鋭治氏が手がけた奇抜なデザインの車両が多い。熊本からの特急あそ1号の接続を受けて発車。この区間は普通列車5往復、特急2往復の閑散区間である。宮地を出ると、外輪山に取り付くため大きくカーブし、ゆっくりと勾配を登ってゆく。途中開けると阿蘇谷を一望でき、長いトンネルを抜けると外輪山を突破して九州で最も高い駅波野である。標高754mで、小海線には遠く及ばないものかなり高いところである。



写真14 阿蘇谷の車窓と波野駅

写真15 玉来駅と豊後竹田駅

坂を少し下って滝水を出ると、大分県に入って森の中をカーブしながら下ってゆく。こじんまりした駅舎の玉来駅を過ぎるとすぐ終点の豊後竹田駅に到着した。向かい側のホームにすぐに接続する13:55発大分行き普通列車が待機していた。広い構内だが一部を留置線として使っているだけのようで、半分くらいの線路は錆び付いていた。竹田は「荒城の月」の作曲で有名な瀧廉太郎の出身地で、岡城跡が観光地になっている。駅舎も城風の建物で、発車メロディにも「荒城の月」が流れていた。

(次号につづきます)